

リハビリテーションセンター

1. スタッフ (2019年4月1日現在)

【医師】

センター長 (准教授)	森田 光哉
医師 (准教授)	星出 聡
(講師)	中嶋 剛
	小森 孝洋
	遠藤 照顕
	山村 真由
(臨床助教)	直井 為任
非常勤医員	大上 仁志

【子ども医療センター】

部長 (教授)	吉川 一郎
医師 (准教授)	渡邊 英明
(助教)	乗島 真理

【診療担当医師】

心大血管疾患	星出 聡
	小森 孝洋
脳血管・運動器・呼吸器	森田 光哉
	中嶋 剛
	遠藤 照顕
	山村 真由
	直井 為任
	吉川 一郎
	渡邊 英明
	乗島 真理

【療法士】

室長	金子 操
室長補佐	黒淵 永寿
	南雲 光則
主任理学療法士	川合 直美、大澤かおる、 関根 利江
主任作業療法士	玉野 彩
主任言語聴覚士	金子弥栄子
専任理学療法士	寺門 大輔、橋本 和子
理学療法士	23名
作業療法士	9名
言語聴覚士	5名
【事務】	
受付事務	2名 (交代勤務)

2. 対象疾患・治療科目

【理学療法】

理学療法は、日常生活に何らかの障害をきたす全ての疾病を対象にしている。主な疾患は、脳血管障害（脳梗

塞、脳出血、くも膜下出血など）による半身麻痺、四肢麻痺など、脊髄疾患（脊髄損傷、脊髄腫瘍による）、切断（糖尿病、外傷後、腫瘍による）、骨折、骨関節疾患（変形性関節症、関節リウマチ、靭帯損傷など）、神経筋疾患（パーキンソン病、筋ジストロフィー症、脊髄小脳変性症など）、呼吸器疾患、循環器疾患である。治療種目は、運動療法、電気刺激療法、温熱療法、牽引療法、水治療法を行っている。理学療法士は、医師の指示、評価に基づいて適切な治療法を組み合わせ、早期のADL自立獲得と社会復帰を目標に治療している。

【作業療法】

小児から高齢者まで生活に障害を持つすべての人にかかわり、訓練、治療を行っている。代表的な疾患は、脳血管障害、脊髄損傷、慢性関節リウマチ、パーキンソン病、外傷、骨折、脳性麻痺、筋ジストロフィー、ダウン症、自閉症などである。

【言語聴覚療法】

ほとんど全ての言語障害に対応、必要な言語リハビリ（言語訓練、指導、相談）を行っている。代表的な言語障害には、聴覚障害（難聴）、言語発達遅滞（ことばの遅れ：精神遅滞、自閉症などの発達障害に伴うものを含め）、機能的構音障害（発音の困難）、口蓋裂に伴う言語障害（構音障害）、脳性麻痺に伴う言語障害（構音障害）、吃音（どもり）、失語症（脳梗塞、頭部外傷などによる）、運動障害性構音障害および嚥下障害（脳疾患、神経疾患など）、音声障害（発声障害）である。

3. リハビリテーションセンターの特徴

【理学療法】

理学療法では、多種多様な疾病、障害に対応できるよう、整形外科系・内科系（神経内科中心）・外科系（脳神経外科中心）のチームを組んで診療している。

麻痺・筋力低下・関節拘縮といった機能障害の改善だけでなく、ADL自立に向けた基本的動作の獲得、障害を克服して生活するための精神・心理的サポート、医師・看護師とのカンファレンスを定期的に行なうなどチーム内での連携を図り、股関節・膝関節・脊椎等の手術後、脳血管障害後、神経・筋疾患、脳外科手術後、外科手術後など患者の生活再建・生活支援を主な業務としている。

心大血管リハビリテーションは、月・水・金の午後心リハ専任医師の直接監視下で、専任理学療法士により行っている。心筋梗塞などによる入院患者のみならず、退院後の患者についても指導・加療している。

【作業療法】

作業療法部門では、病気や事故により障害を負った方々や発達時期に障害を受けた子供たちに対して、いろいろな作業活動（遊びも含め）を利用し、日常生活動作や社会適応能力回復のための訓練、治療を行っている。

また、たとえ障害があっても家庭や学校、職場、社会で生活できるように指導、援助も行っている。

【言語聴覚療法】

言語障害の様相は個々の言語障害内でも多様であり、個々の対象児、者の言語症状に合わせた言語リハビリテーションに努めている。また、小児科、耳鼻咽喉科、口腔外科、神経内科などと連携を図っている。

・認定施設

リハビリテーション医学会認定施設

・認定医・専門医

リハビリテーション医学会臨床認定医

専門医・指導医

森田 光哉

・専門理学療法士

金子 操（運動器）

川合 直美（運動器）

大澤かおる（内部障害）

・認定理学療法士

南雲 光則（神経筋疾患）
（地域理学療法）

関根 利江（呼吸）

荒木 浩二（運動器）

福田 崇法（運動器）

橋本 和子（脳卒中）

濱田 佳祐（脳卒中）

・認定作業療法士

黒淵 永寿

・認定言語聴覚士

金子弥栄子

（言語発達障害・摂食嚥下障害）

4. 実績・クリニカルインディケータ

2018年（2018/1/1～2018/12/31）のリハビリテーション科取り扱い患者数・単位数は、以下の通りである。

【2018年診療実績】

	理学療法		作業療法		言語聴覚療法	
	患者数	単位数	患者数	単位数	患者数	単位数
1月	3,506	6,872	1,321	2,459	533	1,044
2月	3,462	6,808	1,324	2,459	508	984
3月	3,879	7,387	1,450	2,644	589	1,170
4月	3,629	7,279	1,384	2,609	489	955
5月	3,627	7,301	1,438	2,699	536	1,000
6月	3,906	7,696	1,379	2,561	555	1,071
7月	3,729	6,728	1,372	2,585	552	1,063
8月	3,753	7,460	1,496	2,809	572	1,148
9月	3,052	6,012	1,196	2,271	401	793
10月	3,754	7,624	1,416	2,714	497	947

11月	3,719	7,449	1,381	2,647	501	963
12月	3,403	6,825	1,074	2,079	513	985
合計	43,446	86,119	16,231	30,536	6,246	12,123

【2009年から2018年の実績推移】

理学療法



作業療法



言語聴覚療法



5. 他部門とのカンファレンス

リハビリテーションカンファレンス (脳神経外科)	第2・4 火曜日	17:30～ 18:30	脳神経外科病棟
リハビリテーションカンファレンス (整形外科)	隔週 火曜日	18:00～ 19:30	整形外科病棟
リハビリテーションカンファレンス (心大血管リハ)	毎週 水曜日	16:00～ 17:00	リハビリテーションセンター 心大血管リハ室
リハビリテーションカンファレンス (小児科)	隔月第3 火曜日	17:30～ 18:30	こども医療センターカンファレンス室
リハビリテーションカンファレンス (小児整形外科)	1回/3M 第2水曜日	18:00～ 19:00	整形外科外来
二分脊椎カンファレンス	毎月第2 月曜日	18:00～ 19:00	こども医療センターカンファレンス室
口蓋裂カンファレンス	毎月第4 水曜日	18:00～ 19:00	こども医療センターカンファレンス室
補聴器外来カンファレンス	毎週 火曜日	17:00～ 18:00	耳鼻科外来

6. 研究業績 (2018年)

- 1) 矢田理恵, 大貫次利, 山内浩義, 関根利江, 金子操, 中山雅之, 坂東政司, 萩原弘一: 肺移植術待機中に呼吸リハビリテーションを導入し、脳死肺移植術を施行できた特発性間質性肺炎 (iIPs) の1例. 第28回日本呼吸ケアリハビリテーション学会学術集会. 千葉. 2018年11月9・10日
- 2) 関根利江, 中山雅之, 坂東政司, 矢田理恵, 大貫次利, 萩原弘一: 外来呼吸リハビリテーション施行中のCOPD患者における増悪と身体活動量との関係について. 第28回日本呼吸ケアリハビリテーション学会学術集会. 千葉. 2018年11月9・10日
- 3) 大澤かおる, 野澤洋平, 金子操: 当院での造血幹細胞移植患者の理学療法実施基準作成にむけて理学療法実施時のリスク管理について. 第40回日本造血幹細胞移植学会総会. 札幌. 2018年2月3日
- 4) 天間翔太, 濱田桂佑, 橋本和子, 南雲光則: 重度変形性膝関節症に対する理学療法の経験. 第36回日本私立医科大学理学療法研究学術集会. 名古屋. 2018年11月25日
- 5) 木村咲也香, 福田崇法, 荒木浩二, 高德昭彦, 川合直美: 重症血友病性膝関節症に対し、人工膝関節全置換術を施行した症例. 第36回日本私立医科大学理学療法研究学術集会. 名古屋. 2018年11月25日
- 6) 村上知征, 岡田唯, 秋野玲奈, 黒淵永寿: 脳卒中急性期重度上肢麻痺を呈した事例への作業療法介入～ミラーセラピー、電気刺激療法併用の効果～. 第

9回栃木県作業療法学会. 栃木. 2018年11月18日

- 7) 岡田唯: 肺移植待機中、間質性肺炎急性増悪を呈した事例への作業療法. 第9回栃木県作業療法学会. 栃木. 2018年11月18日
- 8) 黒淵永寿: 学童保育訪問事業における作業療法士の役割～学童保育の現状について～. 第9回栃木県作業療法学会. 栃木. 2018年11月18日

7. 2019年の目標・事業計画等

- ・良質なリハビリテーションサービスの提供
- ・施設・設備の充実
- ・リスク管理意識の啓発